

“きこえない自分”と向き合おう

みなさんの耳には、補聴器または人工内耳を付けていますね。補聴器や人工内耳を付けてることが「恥ずかしい」「周囲に知られたくない」と思ったことはありませんか。そういうときは、どんなことを考えるとよい？自分のきこえについて知ることが、きこえにくい自分をみとめるための一歩になります。まず、自分のきこえについて、しらべてみましょう。

聞こえの程度 実際の声や音に例えた聞こえの状態	小さな声の会話 小さな声の会話を聞きとれなかったり、聞き間違えたりする。	普通の声の会話 普通の大きさの声を聞きとれなかったり、聞き間違えたりする。	大きな声の会話 大きな声の会話でも聞きとりにくい。	かなり大きな声 かなり大きな声でも聞きとりにくい。
聴力レベル (dBHL)	軽度 軽度難聴 25dB以上 40dB未満	中等度 中等度難聴 40dB以上 70dB未満	高度 高度難聴 70dB以上90dB未満	重度 重度難聴 90dB以上

(引用・参考：リオネット補聴器HP)

◆自分のきこえについて、身体障害者手帳やオーディオグラムを見て調べてみよう。

わたしが補聴器・人工内耳を付けていないときの聴力レベルは、() デシベルです。
だから、() 難聴です。

◆補聴器・人工内耳を付けていないときやきこえが悪い時、きこえるときは○、きこえないときは×をつけてみよう。

- ①友だちや家族と顔を合わせて話をするとき。 ()
- ②後ろから名前を呼ばれたとき。 ()
- ③駅やお店などいろいろな音がする場所で話をするとき。 ()
- ④病院やお店で名前を呼ばれたとき。 ()
- ⑤車や自転車が近づいて来たとき。 ()
- ⑥テレビや映画などから出る音。 ()
- ⑦電話や玄関の呼び出し音がなったとき。 ()
- ⑧冷蔵庫の開けっ放しによるブザーやストーブの異常音がなったとき。 ()
- ⑨緊急アナウンスや火災報知器(かさいほうちき)がなったとき。 ()

○をつけられたのは、全部で何個でしたか？目で確かめることもできますが、限界があります。きこえにくくなると、会話だけでなく話し合いや連絡など大切な情報が抜けてしまいます。会話がスムーズにできないことから、話しかけられなくなったり、仕事でミスをしてしまったりするなど自分だけでなく周りの人々にも迷惑をかけてしまうことがあります。他にも生活上の危険に気付かないまま見過ごしてしまい、命にかかわる事故につながることもあります。

「きこえ」は、将来自立して生きていくために必要な力であると思います。学校にいるうちに、自分のきこえと補聴器・人工内耳のしくみと管理のしかたを覚えていきましょう。

いろいろな音をききとるために、私は(補聴器 ・ 人工内耳)を大切にします。